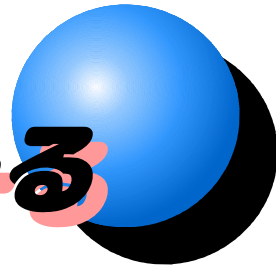




ゆい



まーる



★VOL 9 令和3年2月1日発行



絵本の楽しさをあすそ分け

■「みかんおいしくな〜れ」

矢野アケミ／作

表紙においしそう
なミカンの絵。
これだけで絵本を手
取りたくなるかも…。



●ミカンがおいしくなるおまじない〈みか
ぽん みかぽん おいしくな〜れ!〉ととな
えながら皮をむき、ページをめくると違う
食べ物が現れます。その落差が楽しい作品。
●〈ペンギンくらぶ〉の利用者から、この
絵本を読んでもらった子どもがよほど印象
に残ったのか、冷蔵庫から果物を持ってこ
ようとして大変でしたとのほほ笑ましい感
想が届きました。●裏表紙に楽しいおまけ
が付いています。●1歳半くらいから。

■「ながいながい

ねこのおかあさん」

キューライス／文 ヒグチユウコ／絵

子どもに読
んであげ
た後で、親子一
緒に幸せな気持
ちにひたれる作
品。●子ねこのお母さんは信じられないく
らい胴体が長いねこです。ある日、子ねこ
は風に飛ばされ、気がつくとお母さんのし
っぽのところ。そこからお母さんの顔のと



ころまで戻るプチ冒険物語です。子ねこの
表情やしぐさ、必死にがんばる姿とお母さ
んの愛情が読んでもらう子どもに伝わるこ
とでしょう。●2歳くらいから。●古い絵
本ですが、体の長いダックスフントが主人
公の「どうながのプレツェル」「ナガナ
ガくん」も同じ題材の楽しい物語。

■「もうふちゃん」

くさかみなこ／作 よしむらめぐ／絵

自分の大切なもの
が他の人に役立つ…そんなうれしさ、
やさしさが伝わって
くる作品。●〈もう
ふちゃん〉はチイち
ちゃんお気に入りの毛



布。●ある日、お母さんがもうふちゃんを
洗って干していると、もうふちゃんは風に
飛ばされ、気がつくところは森の中。●も
うふちゃんがチイちゃんのところへ帰るた
めに森の中を歩いているとウサギやリス、
子グマに出会います。みんな暖かいもうふ
ちゃんが欲しくてたまりません…もうふち
ゃんが動物たちにどんなふうに役立つの
か、そしてチイちゃんの元に戻り、ハッピ
ーエンドで終わる最後のページがお楽し
み。親子で読むと温かな気持ちになります。
●3歳くらいから。●子どものものが古く
なっていくにつれ、形を変えて子どもと誰

かの役に立つお話に「おじいさんならできる」(フィービ・ギルマン)があります。古い作品ですが、子どもの成長を見守る家族の愛情、子どもの服が成長に合わせて形を変え、そのつど床下のネズミー家の役に立つ…楽しみどころがいっぱいの作品。

■「ひみつだから！」

ジョン・バーニンガム／作

まよなかにネコは何をしているのか?を描いたで11年前の作品。●同じ題材の「せかいいち ゆうめいなねこフレッド」(ポー



ジー・シモンズ)や家族が留守の日中を描いた「ねこはるすばん」(町田尚子)などがありますが、バーニンガムは、子どもたちと飼いネコが参加する、ネコの女王と一緒にパーティを描きました。●タイトルどおり秘密っぽいお話で、ちょっとラフな絵が幻想的。まさしくネコには〈秘密のにおい〉がお似合いです。●3歳くらいから。

■「にじいろのせかい」

刀根里衣／作

希望に満ちあふれた作品。●お話は、「かなしいことがおきて、せかいがまっくらになってしまいました。絵かきの少年は、くらやみのなかで



かんがえました。このせかいに、ちいさな光をともしんだ」で始まり、少年は絵筆を手に取り、花や海、空にたくさんの色をつけていきます。●世界が朝を迎えるとき、少年はあることに気づきます。作者からの大いなるメッセージです。2020年11月10日の出版。今を描き、子どもたちに贈る〈当たり前幸せ〉が詰まっ

ています。●5歳くらいからおとなまで。

■「女の子はなんでもできる！」

キャリル・ハート／文 アリー・パイ／絵

裏表紙に〈ゆめをかえるすべてのおんなのこのためのえほん〉と書いています。●どのページにも女の子はこんなこともあ

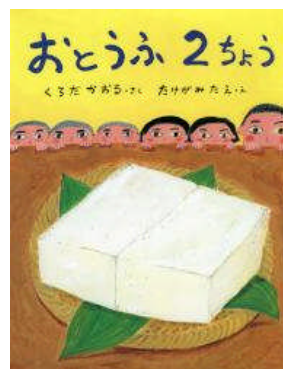


んなこともできる!そしてあなたと同じ女の子は誰もいない!というメッセージを付け、たくさんの女の子を描いています。●未来に輝く女の子の姿やこれまで活躍してきた女性(かつての女の子)も数多く紹介しているので、見るだけでもワクワクするかも…。●お父さんやお母さんが、この絵本を子どもにくり返し読んであげたら、女の子は幼い頃から自分に自信を持ち、男の子は女の子に敬意をはらうようになるのでは…と思います。●3歳くらいから。

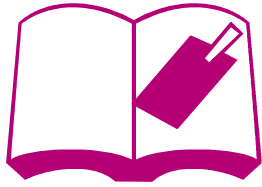
■「おとうふ2ちょう」

くろだかおる／作 たけがみたえ／え

おとうふが1丁ではなく2丁というタイトルがおもしろさのキーワード。●お母さんが夕ご飯のおかず用に豆腐を2丁買ってくるようケンちゃんに頼みます。●最初はケンちゃんの小さなウソ、次に頼まれた双子のちょっとした勘違い、そして次に頼まれた三つ子の勝手な解釈、おまけにお父さんまで加わり、買ってきた豆腐はなんと13丁に…。●絵本の題材は無



限で、お話を広げていく作家のたくましい想像力を楽しめます。●また、大量の豆腐を7種類のおかず仕上げるお母さんの力わさが光り、裏表紙に描かれた空っぽの食器を積み上げた絵が大家族のエネルギーを表しています。●4歳くらいから。



本との出会いを

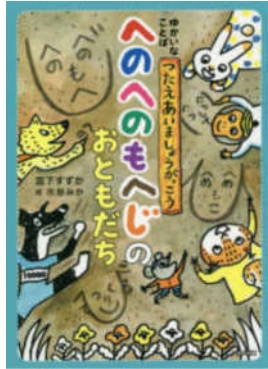
ボーイズ&ガールズに

■「へのへのもへじのおともだち」

宮下すずか／文 市居みか／絵

ひらがなの文字で顔を作って遊ぶ〈へのへのもへじ〉を題材にした童話。

●〈ゆかいなことば つたえあいましょう がっこう〉シリーズ 5 作目。常呂図書館



には全部あります。●主人公は、1年生のリス、うさぎ、さるの仲よし3匹。公園のブランコの前に〈あぶない!〉と書いてある看板に〈へのへのもへじ〉の顔文字…これが3匹にはおっかなく見えるのです。もしニコニコ顔だったらどうだろうと話し合ううちに、〈口が笑っているへのへのもへじ〉を思いつきます。●ここから〈ひらがなで顔を作る〉遊びが発展します。よくもまあ考え出したと思うほどたくさんの〈遊び顔〉が生まれます。●絵もゆかいで、とても良くできたお話です。楽しく遊べるおまけ付き。●小学校低学年に。

■「おばけやさん7

てごわいおきやくさま」

おかべりか／作

マンガと物語を組み合わせた楽しい作品。●小学生のたもつは、たもつの親代わりのウサギ／ポンポと〈おばけやさん〉という便利屋をしています。お父さんとお母さんは



訳あって別な町で〈おばけやさん〉をしています。●近所の人たちから困りごとの相

談を受けると、その内容に応じておばけちゃんを貸し出し、たもつ、ポンポ、おばけちゃんみんなで力を合わせて解決するまでがとてもおもしろい！短めのお話が2つあるのもお得。●仕事を終えたおばけちゃんにたもつがするお礼もほのぼのとしています。●小学校低中学年に。●おかべりかさんの絵は、やわらかで温かみがあり、マンガをうまく使った作品が多いのが特徴。「とちめんぼう劇場」「よい子への道 小学生から」があります。

■「竜が呼んだ娘 魔女の産屋」

柏葉幸子／作 佐竹美保／絵

スケールの大きな冒険ファンタジーで、表紙の絵がそのことを良く表しています。●主人公は11歳の女の子ミア。谷底の村から竜に呼ばれて王宮に



上がり、伝説的な竜騎士夫妻の部屋として働き始めます。●シリーズもので、1作目では、なぜミアが選ばれて王宮にやってきたのかを、2作目ではミアの未来を決定づける大事な仲間ができ、この3作目でミアは、〈竜騎士〉になりたいという望みを宣言します。●このシリーズのおもしろさは、ミアの母親代わりだった〈二のおば〉の言葉「どんな大きな事件もささいなことから始まる、まわりの変化へ目をくばるように」を守り、いくつもの危機に出会うたびに自身の目でしっかり見て、頭で考え、ミアだけができることをしっかりやる…そのことでまわりから信頼を得、自分の居場所を見つけていきます。●また、3作を通してミアやミアのまわりの人たちの家族、

親子、竜との絆が大事なテーマとして描かれ、ミアはこうしたできごとに向き合い、1作ごとに成長を遂げます。●もう一つこの物語のオススメは読みやすいという点。1作ごとのテーマが分かりやすく、登場人物の個性にメリハリがあり、物語の場面展開に合わせて登場人物がうまく入れ替わり、理解しやすく先を読みたくなっていく仕組みになっています。●ミアが多くの人たちに愛され、支えられ、自分の可能性を高め、夢を持ち、その夢を確かなものにしていく物語なので、ミアに気持ちを重ねて読むことができます。●佐竹美保さんの迫力ある立体的な絵も物語の世界を豊かにしています。●小が校中学年からおとなまで。

■「猫町ふしぎ事件簿

猫神さまはお怒りです」

廣嶋玲子／作 森野きこり／絵

いくつかのヒットシリーズ（「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂」「十年屋」「鬼遊び」）を書いている作者が新たに送り出した新シリーズ。●大根古（おおねこ）



町は〈猫町〉と呼ばれ、たくさんの猫が暮らしています。小学校4年生の遠矢はある日、オンボロ屋敷の庭でみごとな猫じゃらしを見つけます。そこには入れ替わり立ち替わり、まるで猫じゃらしを拝むようにいろいろな猫がやってきます。●遠矢が頭の上がない同級生の真理恵から、猫じゃらしを取ってくるよう命令されたことから遠矢は猫たちが大切にしている猫神の世界に巻き込まれていきます。●シリーズ1作目なので、メインの登場人物・猫たちのキャラクターも含めて物語の中でうまく説明され、遠矢が果たす役割も明かされます。●本のサイズ、ページ数、章立てに工夫があり、物語を読むのが苦手な子でもすんなり本の世界に入れます。●小学校中学年に。

■「菜の子ちゃんとマジムンの森」

富安陽子／作 蒲原元／画

しぎな転校生
「菜の子ちゃん」
と一緒に全国各地の妖怪や伝説に出会える物語でシリーズ4作目。●菜の子ちゃん



は、沖縄の県北部・やんばる地方の小学校に転校します。今回は、同級生のユージと一緒に、ブナガヤというマジムン（妖怪）が落とした葉っぱを学校の守り神／赤シーサーと青シーサーに乗って夜中に届けます。今夜はマジムン月の満月十五夜…森のキーヌシー（木の精）たちが赤ちゃんを産むのです。●沖縄の妖怪伝説や文化・言葉がたくさん盛り込まれ、読んで楽しい冒険物語になっています。●毎回、題材にした伝説や地域の文化を作者がていねいに解説しています。●菜の子ちゃんが成長して先生になった「菜の子先生」シリーズ（4巻）もどうぞ。●小学校中高学年に。

■「日向丘中学校カウンセラー室」

まはら三桃／作

日向丘（ひなたおか）中学校に〈さんづけ〉と呼ばれる3つの名前の秘密と生徒たちが持ち込むちょっと変わった相談ごとがリンクし



合う物語。●学校カウンセラーの綾のもとにやってくる生徒たちの相談を5つの連作短編にし、今の中学生ならではのカウンセリング物語にしています。帰国子女、ネットの世界、居場所…生徒の相談が綾と綾の兄との過去と今とを行き交い、短編集ながら深みのある物語になっています。メールでしか登場しない綾のお兄さんが物語の隠し味。●重たいことを扱いつつ、すんなり読めるので中学生にオススメ。